

令和8年度

住民の健康を考える ～健康寿命を延ばすために～

日本人の平均寿命は、男女とも80歳を超えていますが、その一方で、健康寿命は70歳程度とされています。その間の約10年間は、医療・介護等のサービスが必要な場合が多く、超高齢社会においては、健康寿命の延伸が喫緊の課題です。

この研修では、老いてもいきいきと自分らしく暮らせるよう、健康寿命を延ばすために有効性が高いと思われる施策等について、講義、事例紹介により学び、グループワーク等の演習を通して、よりよい事業を推進できるよう具体的に考えていきます。

開催要領

日 程

令和8年11月24日(火)～11月26日(木) (3日間)

場 所

全国市町村国際文化研修所

JR京都駅より湖西線約15分 唐崎駅下車徒歩約3分

対 象

住民の健康増進に関わる市区町村等の職員

3日間全日程をご受講いただける方を対象とします。途中退所や一時帰庁はできませんのでご注意ください。

募集人数

50人募集人数を大幅に超えた場合は、申込期限後に抽選等をさせていただきますので、予めご了承ください。
なお、受講者の決定については、他の研修、セミナーの申込み・受講の有無にかかわらず、本研修単独で行います。

宿 泊

研修所宿泊棟(宿泊型研修)

※外泊はできません。

経 費

15,350円左記金額は、研修、宿泊、食事(朝食2回、昼食3回、夕食2回)、資料代等を含みます。
なお、事前準備・事前学習にかかる費用は含まれておりません。

申込期限

令和8年10月13日(火)まで

申込方法

JIAMホームページ内「研修Web申込みフォーム」からお申込みください。

受講決定

受講の可否については、開講日の約1か月前を目途にメールで通知をお送りします。
経費納入方法等の手続きについては、受講決定通知書によりお知らせします。

事前課題

研修受講にあたって、事前課題に取り組んでいただく予定です。詳細は受講決定時にお知らせします。

問い合わせ先

公益財団法人 全国市町村研修財団 **全国市町村国際文化研修所(JIAM) 教務部**

〒520-0106 滋賀県大津市唐崎二丁目13番1号 TEL.077-578-5932

[e-mail] kenshu@jiam.jp [ホームページ] <https://www.jiam.jp>

令和8年
11月
24日(火)

- 11:00～

入寮受付・昼食
- 12:30～

開講・オリエンテーション
- 13:00～15:35

講義

健康寿命延伸に向けた地方自治体の取組と役割

滋賀医科大学実践看護学講座 教授 宮松 直美 氏

健康寿命延伸に向けた国の取組などについてお話しいただくとともに、地方自治体に求められる役割などについて、エビデンスに基づきご講義いただきます。
- 15:50～17:00

事例紹介

マーケティングとロジックモデルを活用した地域ぐるみの運動促進戦略の実際

島根県雲南市立身体教育医学研究所うんなん 所長 北湯口 純 氏
コーディネーター：滋賀医科大学実践看護学講座 教授 宮松 直美 氏

厚生労働省の「第14回 健康寿命をのばそう!アワード」を受賞した地域ぐるみでの運動普及プロジェクトについて、PDCAサイクルを軸として、継続の工夫や地域全体の運動実施率をどのように上昇できたのか、また今後の予定・課題を紹介いただきます。
- 17:30～

交流会

夕食を兼ねて、ともに学ぶ受講者同士の親睦(情報交換・交流)を深めます。

令和8年
11月
25日(水)

- 9:25～14:10

講義・演習

ロジックモデルを活用した評価によるPDCA管理
～健康寿命延伸に向けて～

国際医療福祉大学大学院医療福祉ジャーナリズム分野 教授 埴岡 健一 氏

住民の健康アウトカムを向上させるために、地方自治体としてどのように取り組みを進めるか、体系的に学びます。

(講義) オリエンテーション／ロジックモデルと評価の基礎

(ワーク1) ロジックモデルを作ってみよう

(ワーク2) 行政計画をロジックモデルに落として理解する
- 14:25～17:25

講義・演習

行動経済学とナッジの健康づくりへの応用
～理論と実践～

帝京大学大学院公衆衛生学研究科 特任助教／
株式会社PONO 代表取締役 杉本 九実 氏

行動経済学・ナッジ理論の基本とナッジ理論を活用した健康づくりの手法、健康寿命延伸に向けた取組事例を学びます。また、受講者自身の取組を再考する演習で、ナッジ理論の健康寿命増進事業への活用を体験いただきます。

令和8年
11月
26日(木)

- 9:00～14:10

演習

ロジックモデルを活用した評価によるPDCA管理
～健康寿命延伸に向けて～

国際医療福祉大学大学院医療福祉ジャーナリズム分野 教授 埴岡 健一 氏

前日から引き続き、ワークを中心に、ステップごとに一緒に取り組みます。各ワークでは、発表と質疑応答を行います。

(ワーク3) ロジックモデルと指標のデータを読んで地域診断

(ワーク4) ロジックモデルにある施策の優先度を検討する

(ワーク5) 施策の年次評価をシミュレーションする
- 14:10～14:40

ふりかえり、研修アンケート記入、閉講